

塚越貝坪遺跡・塚越大沢II遺跡 発掘調査概要

1989年 3月

小杉町教育委員会

序

近年、古代の遺跡発掘調査に関する記事が、度々新聞紙上を賑わせております。全国的に行なわれている発掘調査のほんの数例が紹介されているにすぎないにしても、その件数の多さ、また調査の成果には驚かされることが多々あります。その発掘調査の大半が何らかの開発に伴うものであります。

小杉町においても昭和50年代から開発に伴う発掘調査が急増してきております。とくにここ2,3年は、民間による南部丘陵を中心に大小さまざまな開発計画がなされており、遺跡の確認と保護につとめているところであります。

今年度調査を実施した塚越貝坪遺跡及び塚越大沢II遺跡は、県営畠地帯総合土地改良事業を実施するための事前調査でありましたが、その成果は、さきの丘陵地帯と平野部の接点に位置する遺跡として、その関連等を知るうえで一つの手かかりとなるものと考えております。

終わりに、発掘調査を行なうにあたり、ご援助いただいた富山県埋蔵文化財センターをはじめ、関係機関及び地元の方々に衷心より感謝いたします。

平成元年3月

小杉町教育委員会

教育長 川腰 豊一

例　　言

1. 本書は、昭和63年度に県営畠地帯総合土地改良事業に先立ち実施した、富山県射水郡小杉町塚越地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の試掘調査概要である。
2. 報告にあたっては、塚越貝坪遺跡B地区及び塚越大沢II遺跡の試掘調査結果を記した。
3. 調査は、昭和63年度国庫及び県費補助を受けて、小杉町教育委員会が実施した。
4. 調査事務局は、小杉町教育委員会におき、社会教育課主事金山秀彰・原田義範が事務を担当し、社会教育課課長竹林真昭が総括した。
5. 調査担当者は、つぎのとおりである。

富山県埋蔵文化財センター主任宮田進一

小杉町教育委員会社会教育課主事納谷守辛・原田義範

6. 調査から報告書作成に至るまで富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力をいただいた。
7. 文書の編集・執筆は、納谷守幸・原田義範がおこなった。

I 調査に至る経緯

昭和57年に、射水丘陵東部から大羽丘陵西麓にかけての畑作地帯に、富山県が事業主体となり、県営畑地帯総合土地改良事業が計画された。昭和58年、この計画を受けて県埋蔵文化財センターが中心になり、埋蔵文化財包蔵地の分布調査が実施された。

今回調査を実施した塚越貝坪遺跡・塚越大沢II遺跡は、この分布調査により発見された遺跡であり、分布調査で畑No14遺跡・畑No19遺跡としていたところである。

塚越地内における区画整理及び道路排水路整備事業は、昭和62年度から順次計画策定がなされている。このため遺跡の取り扱いについて、県耕地課、県埋蔵文化財センター、小杉町教育委員会の三者が協議の結果、工事計画地内にある塚越貝坪遺跡・塚越大沢II遺跡の範囲・性格を把握するための試掘調査を小杉町教育委員会が主体となって実施することとなった。

塚越地区の調査は、工事計画の策定順に実施され、昭和62年、塚越貝坪遺跡A地区の試掘調査を実施した。昭和63年度の調査は、塚越貝坪遺跡B地区と塚越大沢II遺跡の道路及び用水路T工事にかかる部分を対象に実施した。

II 塚越貝坪遺跡・塚越大沢II遺跡と周辺の遺跡

小杉町は富山県のほぼ中央に位置し、東西5km・南北12kmの約41km²の広さで、東は富山市域と接している。また地形から北の標高2~6mの射水平野と、南の標高20~60mの射水丘陵に二分できる。このあたりは地質学的には新生代第三期の青井谷泥岩層を基盤とし、その上に日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積している。

塚越貝坪遺跡・塚越大沢II遺跡は小杉町の東端、射水丘陵に連なる一丘のほぼ中央に位置している。北側の塚越貝坪遺跡は標高8m、南の塚越大沢II遺跡は標高15m前後で、両遺跡間で600mほど離れている。塚越貝坪遺跡周辺では前年度のA地区の調査や黒河尺目遺跡のように比較的広い面積の発掘調査が行なわれ、遺跡の様相が次第に明らかになりつつある。

ところで、小杉町は県内でも有数の遺跡が多い所として知られている。射水丘陵では太閤山岡地^①・北陸自動車道・小杉流通業務団地^②・都市計画街路^③・県民公園太閤山ランド^④やゴルフ場建設等の大規模開発に伴う発掘調査によって、遺跡の様相が徐々に明らかにされ、旧石器時代から現代に至る人々の生活の一端が判明してきている。とくに射水丘陵の奈良



第1図 小杉町の主な遺跡位置図 (1 : 50,000) 1.塚越貝塚遺跡 2.塚越大沢II遺跡

～平安時代の遺跡は、多くが須恵器生産・製鉄関連とそれに伴うと考えられる炭焼窯等の生産活動の場であったことがわかつてきた。この射水丘陵一帯の生産遺跡群は、県内最大の規模をもち、北陸地方を代表するものの一つである。これについては、当時の時代背景や自然環境等を含めてのすぐれた考察がなされている。^⑦ 今後資料の増加と相まってますます遺跡の実態の解明がすすむであろう。

一方、平野部では、縄文～弥生時代を中心とした伊勢領遺跡や奈良～平安時代を中心とした三ヶI 遺跡など、調査が行なわれた遺跡もあるが、多くの遺跡は遺物が採集されただけでその実態は不明である。これは大半が古くからの市街地と水田で発掘調査と、町全体を対象にした分布調査が行なわれていなく、遺跡の様相が十分に把握できていないことに起因している。今後、分布調査の実施と遺跡地図等の作成により、遺跡の実体の把握と周知をはかることが早急の課題である。

(註)

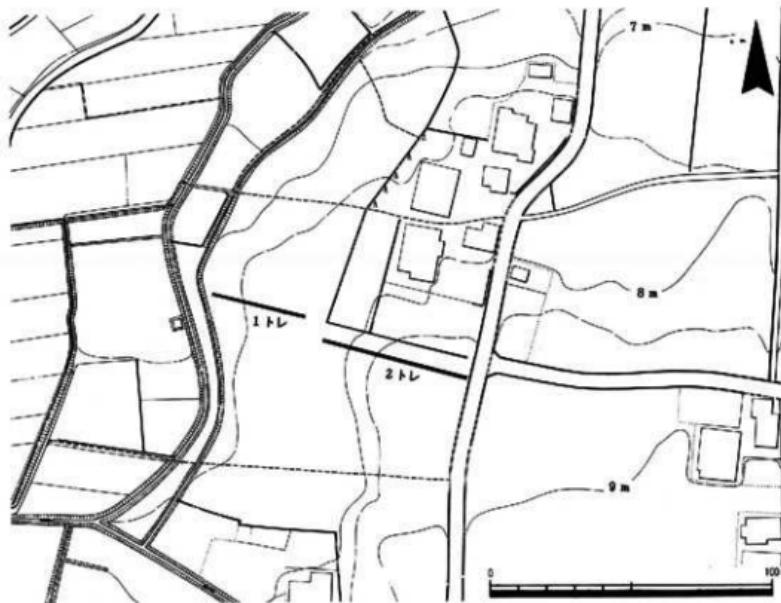
- ① 小杉町教育委員会 「椎上遺跡・塚越貝坪遺跡発掘調査概要」1988。
- ② 富山県教育委員会 「都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(5)・(6)」1987・1988。
- ③ 富山県教育委員会 「小杉町中山南遺跡調査報告書」1971。
「圓山遺跡 小杉町圓山遺跡緊急発掘調査報告書」1970。
「小杉町十三塚遺跡調査報告書」1971。
- ④ 富山県教育委員会 「富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第1次～第8次緊急発掘調査概要」1978～1986。
- ⑤ 富山県教育委員会 「都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(1)～(6)」1983～1988。
- ⑥ 富山県教育委員会 「県民公園太閤山ランド内遺跡群発掘調査報告(1)・(2)」1982・1983。
- ⑦ 上記の各報告書に、調査者によって射水丘陵での古代の須恵器生産・製鉄・炭焼窯等についての考察がなされている。

III 塚越貝塙遺跡B地区調査概要

前年度調査区(A地区)の南西250mの標高8mの畠地に、1m幅の調査区を2箇所設定し(B地区)、約86m²を対象にして調査を行なった。調査区の土層層序は上から表土(10cm)・暗褐色土(50cm)・灰白色土(地山)の順で、灰白色土上面で遺構検出を行なった。

遺構は、1トレでは径30~40cmの小穴を多数、2トレでは径0.8mの穴3個、径1.5mの土塹1基、溝2条を検出したが、調査区の制約からその性格等を明らかにできなかった。

遺物は、縄文土器・土師器・須恵器・中世陶器・鉄滓等が出土したが、いずれも包含層から出土しており、遺構には伴わない。(1)・(2)は須恵器杯Aで、内・外面はロクロなで、底部外面を窓きりののち、かるくなでつける。(3)・(4)は須恵器杯Bで、内・外面はロクロなで、底部を窓きりののち高台の周囲をなで調整する。(3)はこのときのなでが明瞭に残る。高台は(3)・(4)とも外にむかって少しふんばる。(5)は土師器の裏で内・外面ともかき目調整ののち、口縁部付近をなで調整し口縁端部をつまみ出す。外面に煤が付着する。このほかに珠洲焼



第2図 塚越貝塙遺跡B地区調査位置図 (1:2,000)



第3図 塚越貝塚遺跡2トレス半邊構配図(1:200)

の小破片等が出土している。また縄文土器は縄文時代中期前葉と考えられるもので量的にまとまっている。

今回の調査では、調査区の制約から遺構の性格等を明らかにできなかった。しかし、出土遺物から塚越貝塚遺跡は縄文時代中期前葉から中世に至る複合遺跡であると考えられる。そして、鉄滓・炉壁等が出土していることから、この周辺に製鉄関連の遺構の存在が予想される。すなわち、塚越貝塚遺跡も他の射水丘陵の多くの遺跡と同様に奈良～平安時代においては、製鉄関連の遺跡であったことを示すものであろう。また、近接した黒河尺目遺跡との関連をふくめて今後の周辺での調査により遺跡の様相が明らかになっていくことを期待したい。



第4図 塚越貝塚遺跡出土土器(1～4須恵器、5土師器)

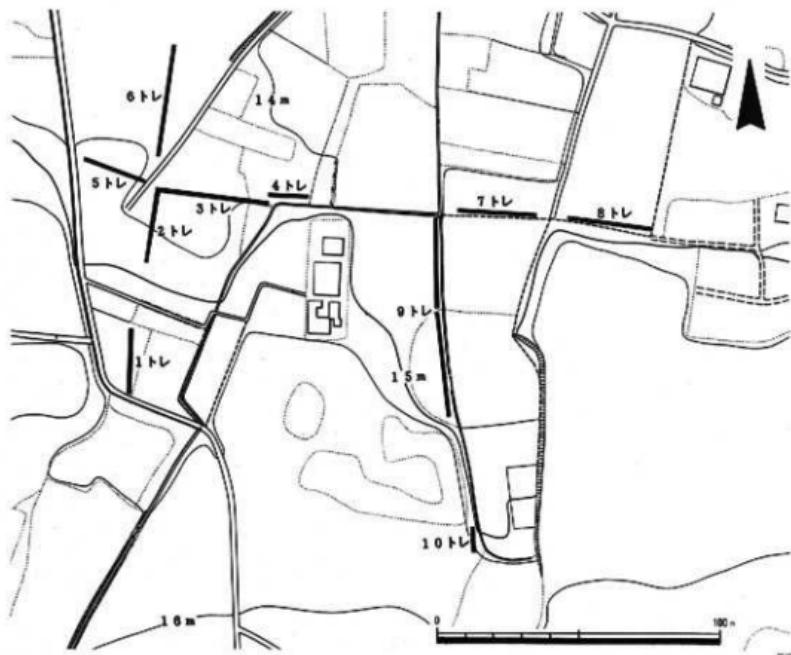
IV 塚越大沢II遺跡調査概要

標高14～16mの丘陵中央部の畠地に、道路計画予定地にそって、1m幅のトレンチを10箇所設定し、約304m'について発掘調査を行なった。

調査区の上層層序は、調査区によって少し異なるものの、基本的には上から表七(10cm)・黒色土(30～70cm)・灰白色土(地山)の順である。土層は7トレンチでは西に、9トレンチでは北に行くほど地山面が深くなる傾向にあり、IH地形の様相の一端が明らかとなつた。これは現在の地形にもある程度反映されている。

遺構は、植木の根巻きにともなう現代の土坑を検出しただけで、他に顕著な遺構はなかつた。

遺物は、7トレンチで鉄滓が1点出土したのみで、土器等は出土しなかつた。なお、9ト



第5図 塚越大沢II遺跡位置図（1：2,000）

レンチ東30mの一段高い畠地では鉄滓が広範囲に分布しており、付近に製鉄関連の遺構の在存が予想される。今後の周辺での調査によって、遺跡の様相が明らかになっていくことを期待したい。

V まとめ

塚越貝塚遺跡の調査では、縄文土器、奈良時代～中世にいたる遺物が出土した。遺構も所属時期は不明ながら存在しており、今後の調査では十分に注意する必要がある。また、鉄滓・炉壁等が存在していることから周辺に製鉄関連の遺跡の存在が予想される。

一方、塚越大沢II遺跡の調査では、顕著な遺構は検出されず、遺物も鉄滓が1点出土したのみである。しかし、調査区周辺の畠地には鉄滓が広く分布しており、周辺に製鉄関連の遺跡が存在する可能性が強い。

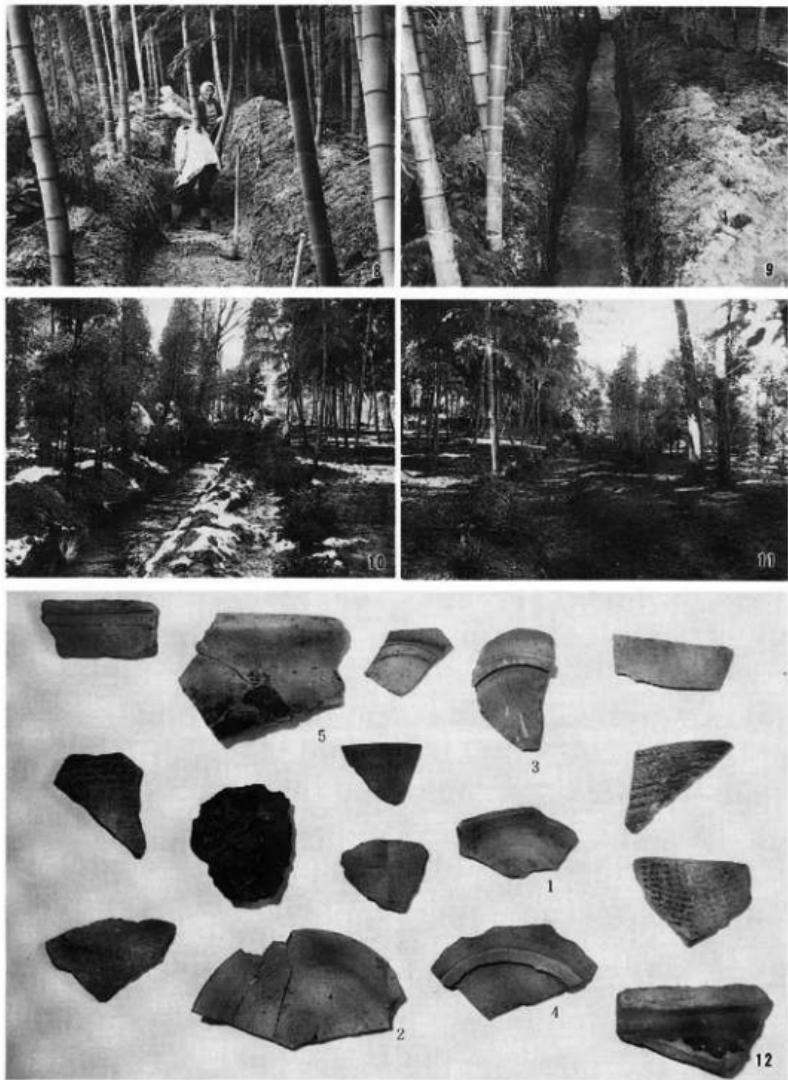


1. 塚越貝坪遺跡1トレ発掘風景

3～5. 塚越貝坪遺跡2トレ遺構

2. 塚越貝坪遺跡2トレ

6～7. 塚越大沢II遺跡現状



8. 塚越大沢II遺跡9トレス発掘風景 9. 塚越大沢II遺跡9トレス

10. 塚越大沢II遺跡8トレス埋戻し作業風景 11. 塚越大沢II遺跡埋戻後 12. 出土遺物

**塚越貝坪遺跡・塚越大沢II遺跡
発掘調査概要**

編集・発行 小杉町教育委員会

発行年月日 平成元年3月31日

印 刷 日興印刷株式会社
